

学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

学校名	麻生養護学校	課程・学科 教育部門・学部	知的障害教育部門・ 肢体不自由教育部門・ 小中学部・高等部
-----	--------	------------------	-------------------------------------

1 学校のミッション

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労の取組を促進し、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のための、一貫した教育を行う。医療的ケアを必要とするなど、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の教育活動全般について、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障害及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導を実践する。加えて、開校からの理念であるインクルーシブな社会の実現を目指す学校として、校内外の連携を一層推進する。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

2 学校教育目標

- 自立と社会参加をめざす小中高一貫した教育の実践
- 児童・生徒一人ひとりに「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を育成する授業の実践・研究を推進
- ＩＣＴ機器等の有効活用を含め、専門性の高い教育活動の実践・研究・発信の推進
- 地域の学校等への、センター的機能による組織的なコンサルテーションの推進

<目指す学校像>

- 児童・生徒がもっている力を発揮し、意欲的に学べる学校
- 教員が使命感をもち、前向きかつ積極的に活躍する学校
- 地域の学校等と信頼関係を築き連携する学校

<目指す子ども像>

- 自分もまわりの人も大切にする子ども
- 主体的にかかわろうとする子ども
- 意思を伝えたり、自己選択・自己決定をしたりすることができる子ども

3 計画策定期点での課題

- 新学習指導要領に基づく小中高の系統性や連続性を評価し、一貫性のある教育課程の編成をさらに進めることが課題である。
- 授業実践の整理と研究を進め、積極的な研究成果の共有とそれらを校外に発信することが課題である。
- ＩＣＴ機器等のさらなる有効活用等により、部門や学部学年を越えて学校全体で児童・生徒の力を引き出す有機的な教育活動を実現・活性化することが課題である。
- 開かれた特別支援学校として、本校の専門的な実践や情報の発信等をより積極的に行い、地域社会がインクルーシブな社会へ近づくよう地域住民との組織的な協働をさらに進めていくことが課題である。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点で小学部から高等部まで一貫性のある教育課程を編成し、実践・評価・改善を図る。 ・ＩＣＴ機器等の有効活用を推進し、専門性の高い教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の教育課程を全学部で共有し、実施状況について検証する。 ・学校全体で日課の確認・見直しを行い、系統性を持たせる。 ・ＩＣＴ機器等を活用した授業事例等を全職員で共有し、実践する。
2	児童・ 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた個別の指導と集団の指導両方を関連付けた授業実践、児童・生徒支援、教育相談を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別教育計画と教育課程の評価・改善を連動させるシステムを構築する。 ・専門職を含めチームで多面的に児童・生徒の実態把握を行い、個別教育計画の検証と評価・改善を組織的に行う。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人ひとりの発達の段階に応じた進路指導・支援を行い、将来の自立と社会参加を実現するために必要な力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から将来の生活を見据え、自己選択・自己決定の力を養う学習活動について見直す。 ・小中学部から高等部を通して、作業学習から「ワーク・アート」への系統性を持たせる。 ・卒業後の生活を見通し、進路学習の内容を整理する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現に向け、学校と地域住民との協働による活動を展開する。 ・センター的機能を發揮し、小中学校及び高等学校への組織的な支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ向けた研修や地域住民と協働して行う防災活動やイベント等を開催する。 ・ホームページ等で授業実践や研究成果を発信する。 ・センター的機能を組織的に展開する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人格的資質・指導力(課題解決力・授業力)・専門性の向上を図る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が事故、不祥事防止や授業研究に主体的・意欲的に取り組めるシステムを構築する。 ・各部門及び各学部経営や分掌業務をつなげ、組織的に整備する。